



# 高校生の 進路選択を考える

第12回 長野県諏訪二葉高等学校

## キャリア意識の形成につながる多様なプログラムを実施し 高校3年間をかけて生徒の進路選択の可能性を広げる

このコーナーでは、社会が変化し、高校教育・大学教育・大学入学者選抜も変わっていく中で、高校生の進路選択、高校での進路指導はどのように変わっていくのか、考えていく。

今回は、長野県諏訪二葉高等学校のキャリア教育・進路指導の取り組みを紹介する。同校では、生徒の秘められた能力や可能性と一緒に発見し、そこから自立の道を手助けする「Iプロジェクト」を実施している。具体的な活動内容とその成果について進路指導主事の阿部 力先生、学習指導・キャリア教育係の中田真也先生、2014～17年度の4年間、同係を務めた第1学年主任の浜 好治先生にうかがった。

世の中の仕事を知り  
就業するために  
何を学ぶ必要があるか  
自ら考えさせる

——まず、Iプロジェクトの趣旨についてお話ください。

**中田** Iプロジェクトとは、〈Integrated Study (総合的な学習の時間：各学年1単位)を活用し、生徒のIdentity (アイデンティティ)の確立とIndependence (自主自立)の精神の涵養を図る。〉というコンセプトのもと、2011年度にスタートしたプロジェクトであり、各キーワードの頭文字である「I」を名前に冠しています。趣旨はひと言で言えば、「生徒のやる気に火をつける」こと。第一に、自分を見つめ、可能性を発見し、着実な将来像を描き、その実現のために学ぶ。第二に、自分を取り囲む社会への視点を持ち、自分で考え、行動できる力を育む。これらの目標を達成できるよう、総合的な学習の時

間を通して、生徒のキャリア意識を高めていく、というねらいがあります。

**浜** Iプロジェクトを立ち上げた当初は、1・2年次の総合的な学習の時間で行う「課題研究」を軸としていました。研究したい課題を生徒が自由に見つけ、教員のアドバイスを受けながら探究し、2年次の1学期に発表するというものです。しかし、当時の取り組みは生徒にも教員にも負担が重いものでした。

また、1・2年生の様子をみると、ほとんどが第一志望に「信州大学」を挙げるものの、信州大学にある学部、教育・研究の内容、キャンパスの位置など、大学のことをほとんど

知らない生徒も少なくありませんでした。また、「将来、仕事は何がしたい？」と聞いても、「わかりません」と答える生徒が大多数でした。

そこで、私が学習指導・キャリア教育係の担当になった2014年度頃から、キャリアを考えていくうえで、まず、世の中にはどのような仕事があるのかを知るところから始め、その仕事に就くには何を学ぶ必要があるか、そして、そのためにはどの大学へ進んだらよいのか、出口(就職)から考えて逆算し、高校生のうちにどのような力をつけておくことが必要かを考えさせていく方向へ、プロジェクトの焦点を移しました。同時に、



阿部 力先生

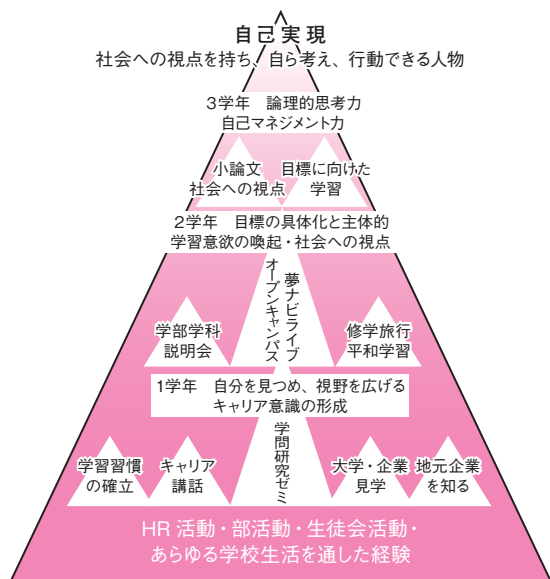


中田真也先生



浜 好治先生

## <図>Iプロジェクトの概要



「課題研究」も、「学問研究ゼミ」（後述）へと内容を変更し、1年で完結するようにしました。

### キャリア意識形成を促す 1年次の多彩な取り組み

——現在のIプロジェクトでは、具体的にどのような取り組みを行っているのでしょうか？

**中田** 各学年で、さまざまな活動を取り入れています<図>。中でも、1年次のキャリア教育には特に力を入れています。講師を招いて職業と大学について話を聞く「キャリア講話」、地元企業の方を学校に招いて話を聞く「地元企業を知る」や、大学とその所在地近隣に拠点を構える企業等を見学する「進路研修旅行」など、さまざまな機会を通じて大学や仕事・社会について考えるきっかけを与えています。そして、総合的な学習の時間で取り組む「学問研究ゼミ」で、見聞きした内容をまとめていきます。

「地元企業を知る」は、本校で最も重視している行事です。諏訪市と諏訪商工会議所の協力のもと、地元企業の協力を得て実施しています。2017年度は11月に実施し、ホテル

業、精密加工業、光学機器メーカー、酸素ガス会社、機械・工具・電子部品等の専門商社、建設・不動産業、金融業、病院、新聞社、テレビ局など、地元企業10社から講演者を派遣していただきました。

話の内容は、企業の事業内容はもちろんのこと、会社の組織、社会に出て働く厳しさ

とやりがい、地元を支えている先輩たちは、どのような考えや経緯があってその会社に入ったのか、高校時代の過ごし方など、体験を交えて話をさせていただくように依頼しています。

**阿部** 「地元企業を知る」では、クラスを超えて10班に分かれ、各班が2社の話を聞きます。事前学習で話を聞く企業2社について調べて質問事項を考え、当日に臨みます。また事後学習では、話を聞いた感想をレポートにまとめます。諏訪市はかつて製糸業で栄え、現在も精密機械工業、ハイテク産業で世界を牽引する企業がありますが、この行事を通じて、「地元にもこんなにトップ企業があるのか」と驚く生徒もいます。それに加えて、「製造業だったら理系という思い込みがあったけれども、総務などの文系の仕事もあって会社は成り立っていると知った」などといった感想も少なくありません。生徒がそうしたことに気が付くことにも、手応えを感じています。

**浜** 「地元企業を知る」を通じて進学や就職のイメージを持たせた上で、1年次2学期末の「進路研修旅行」では、学校から出て、実際に大学の雰囲気や企業の現場に触れることで、

視野を広げていきます。

2017年度の進路研修旅行は、「中央大学多摩キャンパス（法・商・経済・文学）+国立天文台三鷹キャンパス」「都留文科大学+山梨日日新聞」「信州大学伊那キャンパス（農学部）+伊那食品工業株式会社」「信州大学上田キャンパス（繊維学部）+フレックスジャパン（ワイシャツ）」「信州大学長野キャンパス（教育学部）+SBC信越放送」「長野県看護大学（看護学部）+駒ヶ根青年海外協力隊訓練所」の6コースを設定し、生徒は希望のコースに参加しました。

**中田** さらに、「学問研究ゼミ」では、「地元企業の話」や「進路研修旅行」などで得た情報を元に、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「医療」「実技・技能」の5講座に分かれて、興味のある学問や仕事について調べていきます。

これにより生徒は自分の進路希望をじっくりと考えながら、担任の先生とのやりとりを通して、少しずつ着実に目標を設定していきます。

### 就業体験やイベントを通じ 進路目標を具体化

**阿部** そのほか、毎年8月には2年生、10月には1年生を対象に「出前講座」も開催しています。今年度出前講座では、1年生は新潟大学、2年生は信州大学、長野県立大学、都留文科大学から先生を招いて、講座を開いていただきました。いずれも本校の生徒の進路希望が多い大学です。本校の特徴として、看護学部など医療系への進学を希望する生徒が比較的多いので、今回は作業療法・理学療法の先生にも来ていただきました。

また、本校では希望者を対象に

「夏休みの就業体験」も実施していますが、医療関係の就業体験は1～2年のうちに必ず体験するように指導しています。生徒によっては、医療関係の学部・学科を志望していても、血を見るのが苦手だったりする場合があります。就業体験を通じて、仕事に対する“向き・不向き”を自己判断できれば、進路選択を早めに軌道修正することも可能です。

——2年次以降は何に重点を置いていますか？

**中田** 1年次で学問研究したことに立脚して、2年次では実際にどの大学のどの学部で何を学べるのか調査し、進路選択について目標の具体化を図ります。その柱となるのが、毎年開催されている「夢ナビライブ」への参加です。大学の学問の今を直接教授陣から聞くことで、学問の面白さを肌で感じたり、大学別ブースで大学関係者と直接話をする機会を通じて、進路に向けた意欲がかき立てられます。

**浜** このイベントのいいところは、他校の生徒さんも大勢集まってくるから、進学校として全国的にも有名な学校の高校生たちから刺激を受けて、進路選択の覚悟が生まれ、学習へのモチベーションがぐんと高まる点ですね。実際、このイベントと夏休みのオープンキャンパスを機に「志望校が決まりました」と言う生徒が少なくありません。

### 好きなことや 興味を持ったことから 進路を考えさせる

——生徒に進路を考えさせるうえで、大切にしていることや、今後の課題や展望についてもお聞かせください。

**浜** 現在、1年生の学年主任を担当

していますが、この学年から大学入試制度が大きく変わるため、学年としてさまざまな新しい課題に取り組んでいかななくてはなりません。例えば、本校ではこれまでも小論文指導を行ってきましたが、今後はさらに力を入れる必要を感じています。

また、志望理由書に関する指導も課題になります。大学を志望した動機や理由、将来のキャリアデザイン、夢の実現へ向けて自分がどのように努力してきたかなど、説得力を持たせて、なおかつ、客観的に表現できる力が求められます。今年度からはe-ポートフォリオを試行的に導入し、高校生活において取り組んだすべてのことに関して、生徒自身が書き残すように指導しています。現在とはかく記録を残すことを重視していますが、続けていくうちに生徒に「振り返り」の習慣が身について行動が変わったり、表現力が伸びたりすることを期待しています。

**中田** 本校の生徒には、自分が「好きなこと」や「興味を持ったこと」

を大切にしていってほしいと思っています。大学の学部を選ぶ際に、「果たしてこの学部で学んだことが、将来の仕事などにつながるのだろうか」と思うこともあるでしょう。でも、実際にその学部に進んでみると、思いがけない仕事につながっていることも少なくないので、まずは興味を持てる学問を見つけてほしいですね。そうしたことを、Iプロジェクトのプログラムを通して伝えたいと思います。

**阿部** 中田先生がおっしゃったように、やはりいろいろな興味を持ち、自分に合ったキャリアデザインを模索することが大事だと思います。教員から進路を勧めるのではなく、生徒が主体的に自分の進路を選択できるようにサポートすることが重要です。Iプロジェクトを充実させるだけでなく、日々の面談や進路通信なども工夫しながら、生徒が興味を持てる仕事や学問を探せるチャンスを今後も増やしていきたいですね。

#### 長野県諏訪二葉高等学校（全日制）

◇所在地：長野県諏訪市岡村2-13-28

◇沿革：1901（明治34）年 諏訪補習女学校として、上諏訪町高島尋常小学校に附設  
1909（明治42）年 長野県上諏訪町立諏訪高等学校を新設  
1933（昭和8）年 県立に移管。長野県立諏訪高等学校となる  
1948（昭和23）年 新制高校に移行、長野県諏訪二葉高等学校と改称  
1987（昭和62）年 男女共学実施

◇学級編成：普通科 各学年6クラス

◇生徒数：714名（男子287名、女子427名）

◇特色：長野県において女子教育の中心校として発展を続けてきたが、1987年に男女共学に。学校目標は「自主・努力・感謝」。生徒たちは質の高い学び、活気あふれる部活動、自ら上げる生徒会活動に励み、この目標実現をめざしている。進学率約90%の進学校であり、2011年度からはキャリア教育「Iプロジェクト」をスタート。生徒のキャリア意識の形成と自己実現をサポートする取り組みに全校をあげて取り組んでいる。

◇卒業生の進路：2018年4月1日現在 2017年度卒業生236名  
・進路：4年制大学158名、短期大学12名、専門学校他30名、就職3名、進学準備33名  
・合格者の内訳（現役生、延数）：国公立大学59名、私立大学258名